

決算説明会

株式会社 **アールス物流**

(東証プライム 9055)

2024年5月10日

代表取締役
社長執行役員 臼居 賢



1. 2024年3月期決算の概要

2. 主な事業活動

3. 資本業務提携等について



経済環境

主要国の多くで金融引き締めなどを背景に経済成長は緩やかに鈍化。日本は、インバウンド消費など回復の一方、物価高など景気は弱含み。

電子部品関連

自動車関連概ね堅調であったがEV化に伴う中国マーケットの変化の影響大。産機用部品は設備投資が低迷、過剰在庫の消化進まず。民生系は需要回復せず、スマホ、PCなどの生産停滞継続。物流面では、航空貨物の減少、国際輸送運賃の大幅な落ち込み。荷動き停滞に伴う効率悪化、国際輸送における競争環境激化。

消費物流

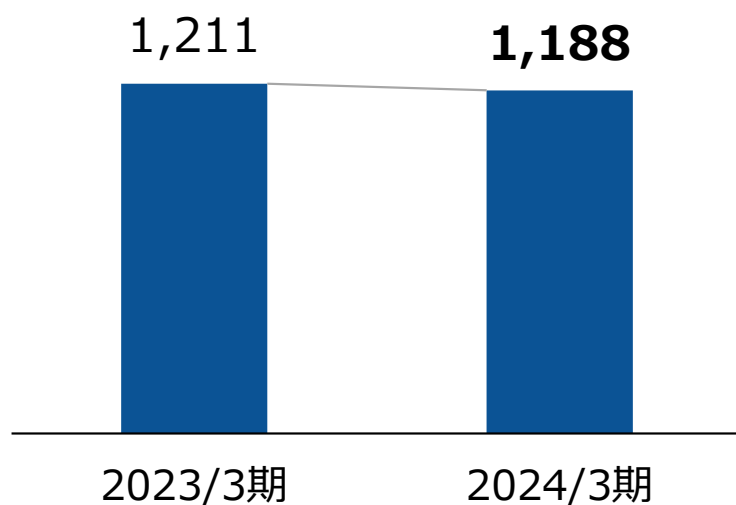
生協宅配業務は、エリアは拡大したが、取扱い貨物量は前年並み。通販・EC物流は、新規拡販、荷動き堅調、取扱い量増加。



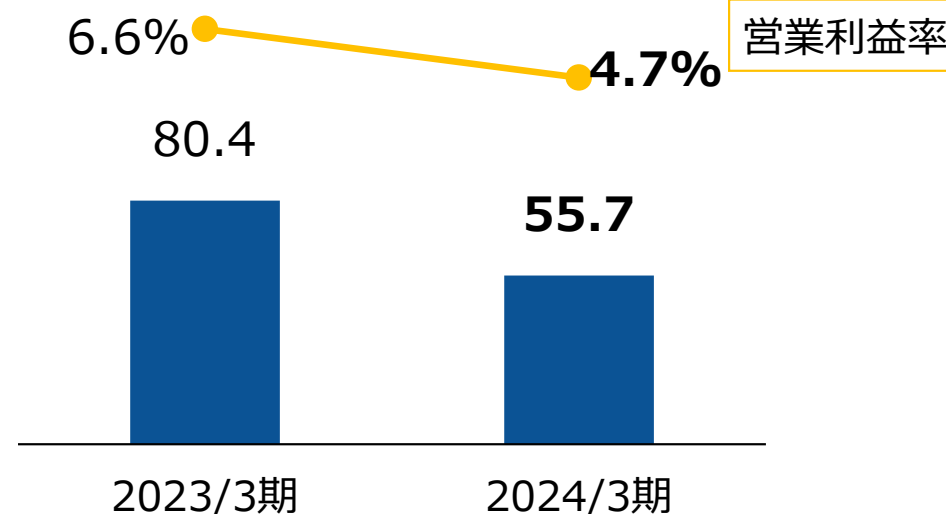
新規顧客へ拡販増も既存貨物量減少補えず減収減益

(単位:百万円)	2023/3期		2024/3期	
	実績	実績	実績	増減率 (対前期)
売上高	121,165	118,844	118,844	△1.9%
営業利益	8,043	5,578	5,578	△30.6%
経常利益	8,790	6,019	6,019	△31.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,032	3,570	3,570	△29.1%

■ 売上高 (単位: 億円)

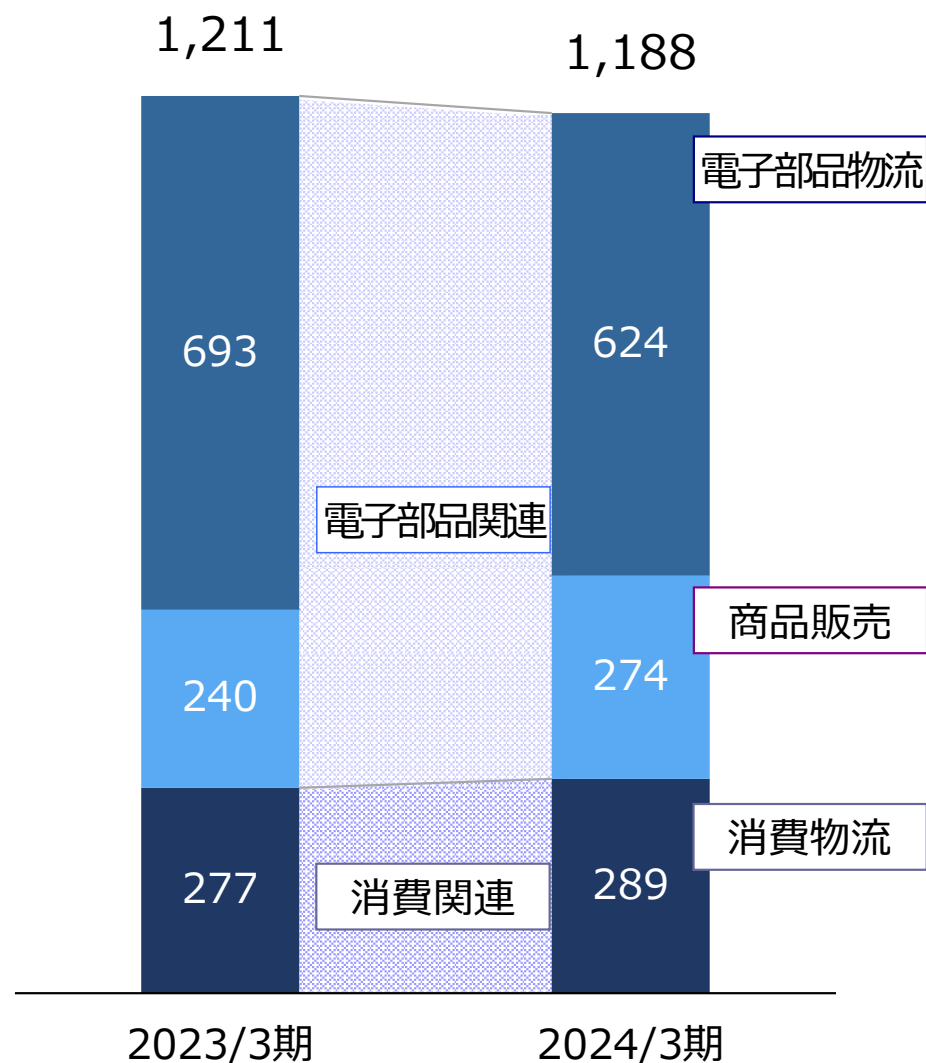


■ 営業利益 (単位: 億円)



■セグメント別売上高

(単位：億円)

前期比 $\Delta 23$ 億円 ($\Delta 1.9\%$)■ 電子部品物流 $\Delta 69$ 億円

新規拡販など増加も、航空貨物減少、国際運賃下落、取扱貨物量の減少で減

■ 商品販売 +34 億円

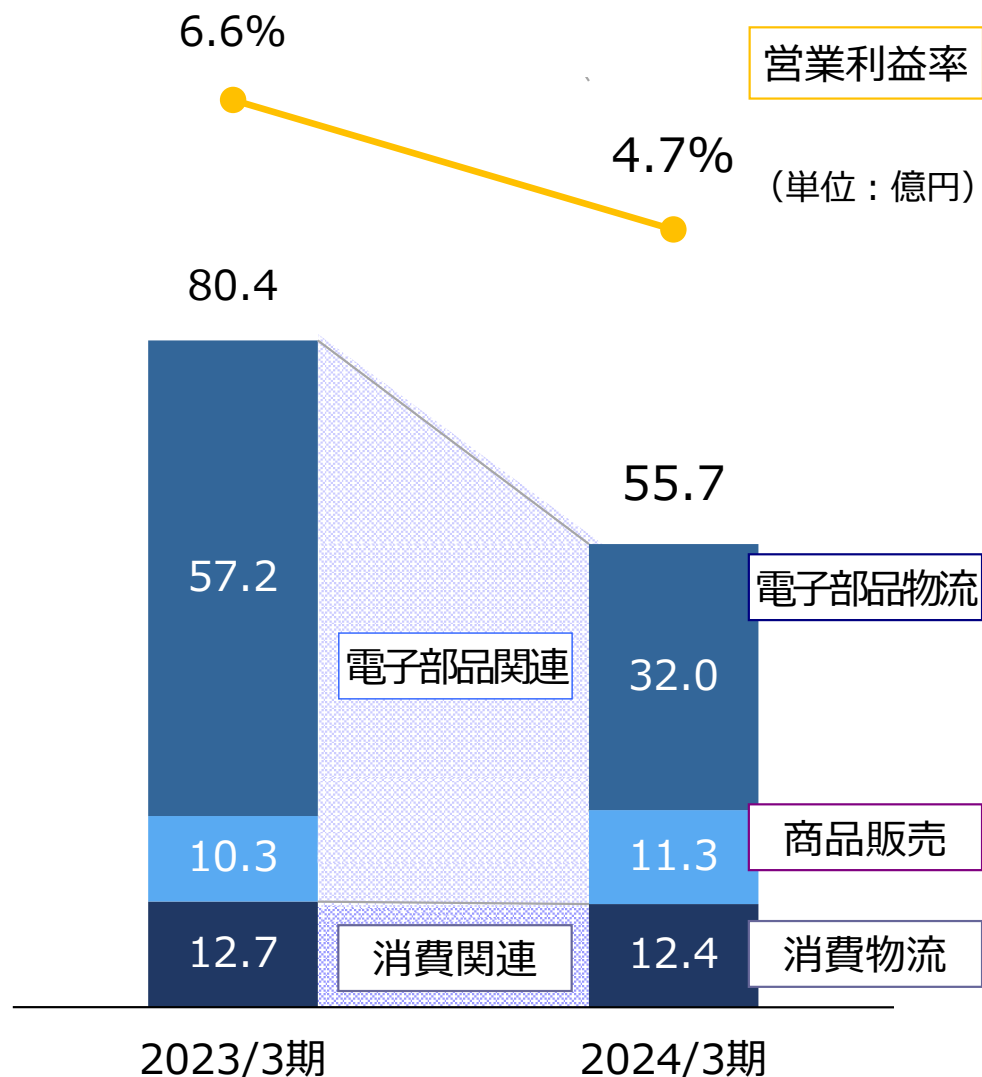
車載関連で電子デバイスの販売が海外向けを中心に増

■ 消費物流 +11 億円

生協宅配の取扱い物量は前年並み、通販・EC物流の荷動き堅調で増

※各セグメントの売上高は連結消去後の数値です

■セグメント別営業利益



前期比 $\Delta 24.6$ 億円 ($\Delta 30.6\%$)

■ 電子部品物流 $\Delta 25.2$ 億円

拡販効果、生産性向上などプラス要因もあったが、国際輸送の競争環境激化、インフレ影響などによる固定費増あり減

■ 商品販売 + 0.9 億円

増収による増加、為替の円安効果もあり利益増

■ 消費物流 $\Delta 0.3$ 億円

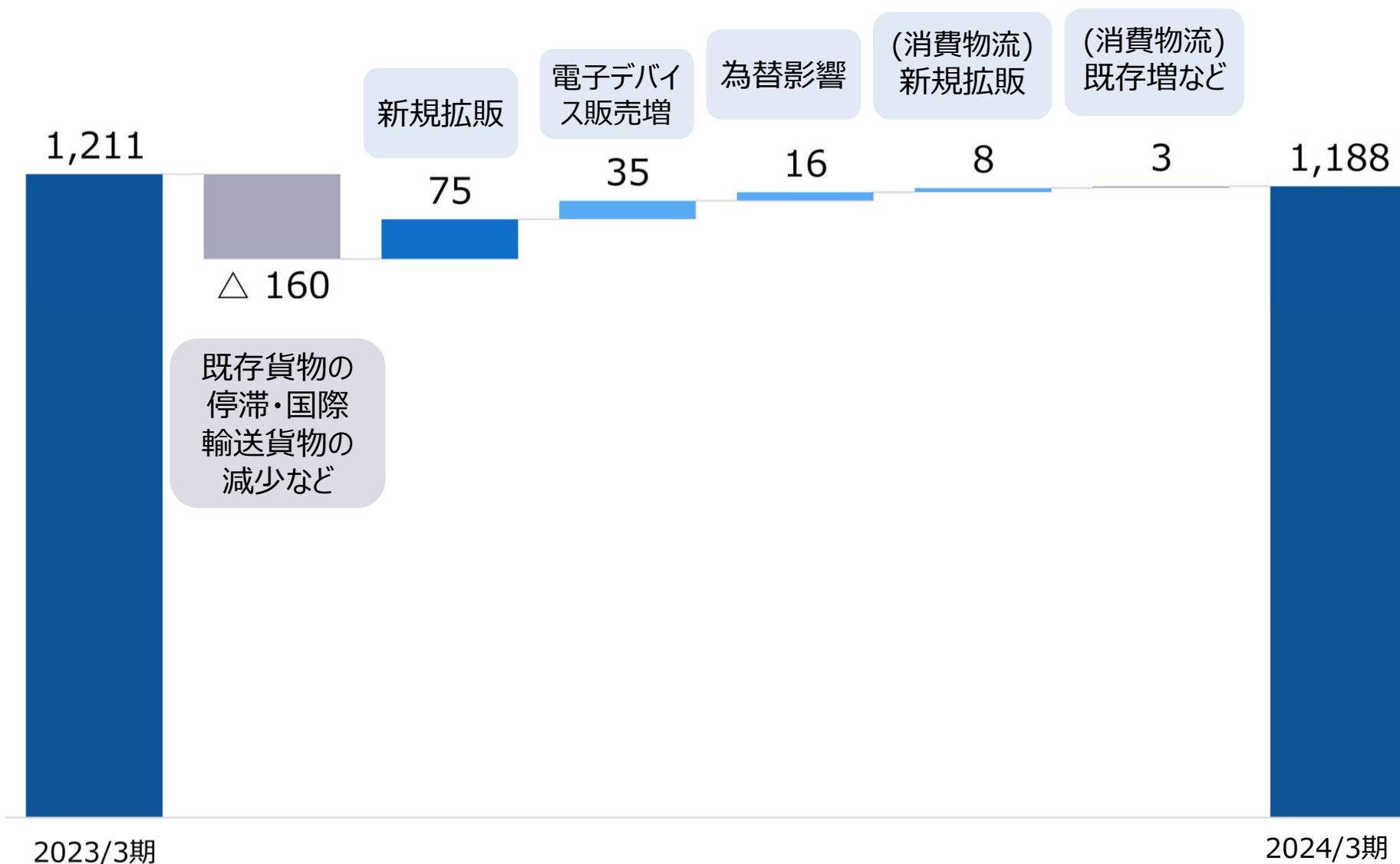
増収及び生産性向上で利益増加も、支払運賃、増床による賃借料増加などで減

※各セグメントの営業利益は連結消去後の数値です



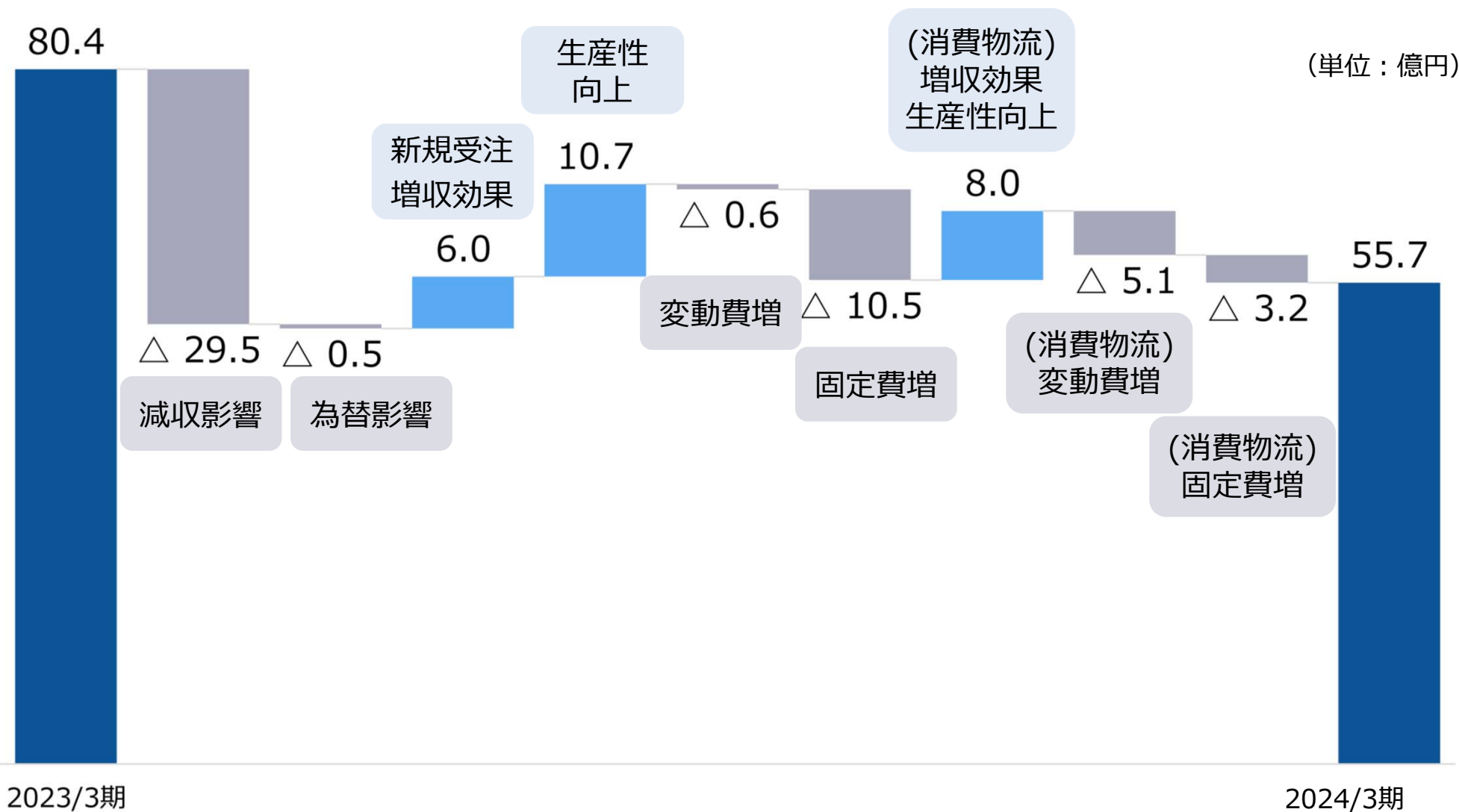
既存荷動き停滞、国際輸送貨物減少など補えず減

(単位：億円)



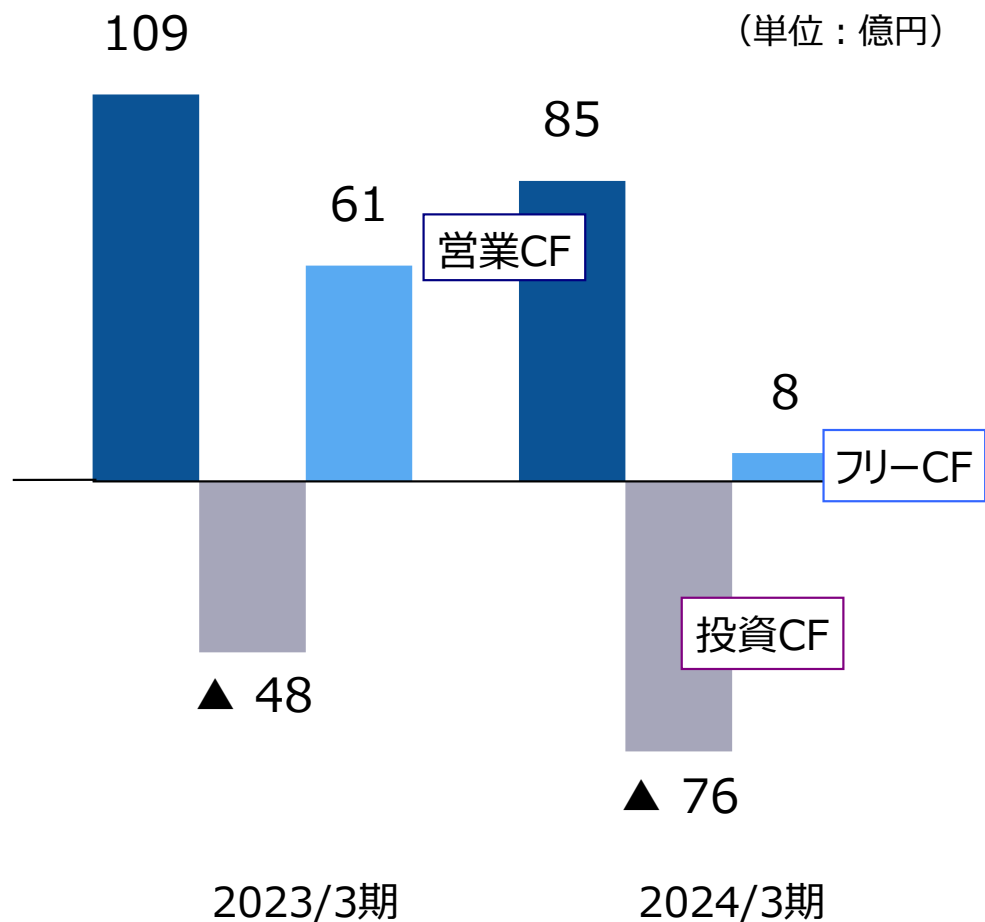


生産性向上など取組むも、減収影響などで減

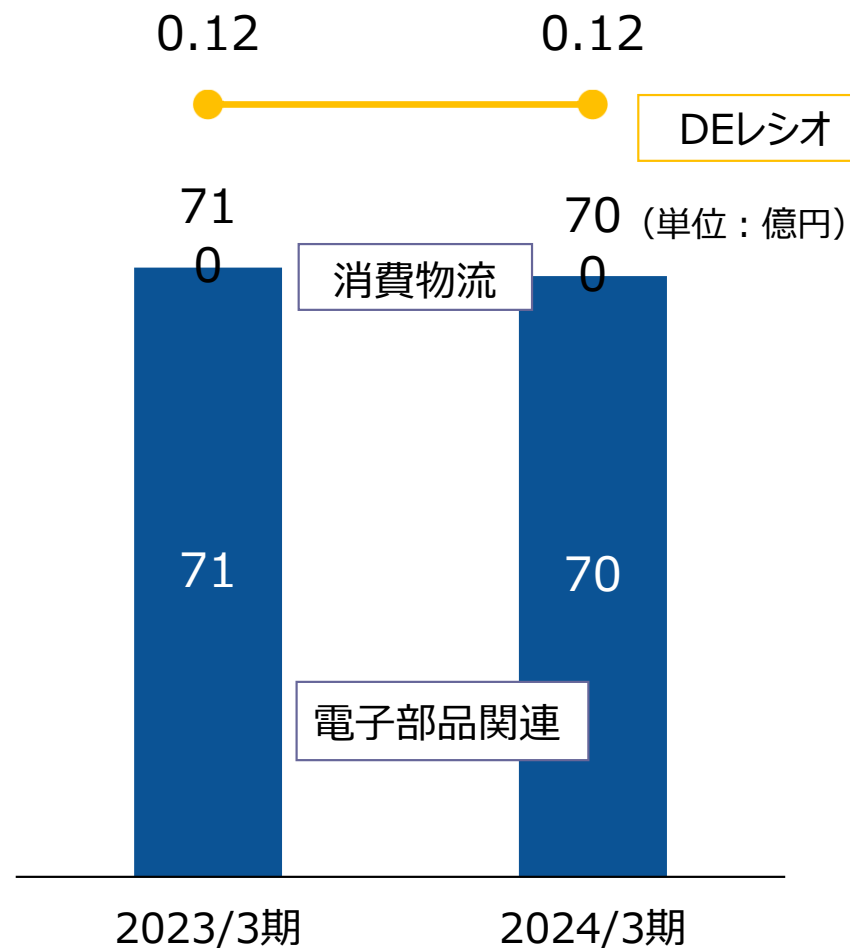




■ キャッシュフロー



■ 有利子負債残高

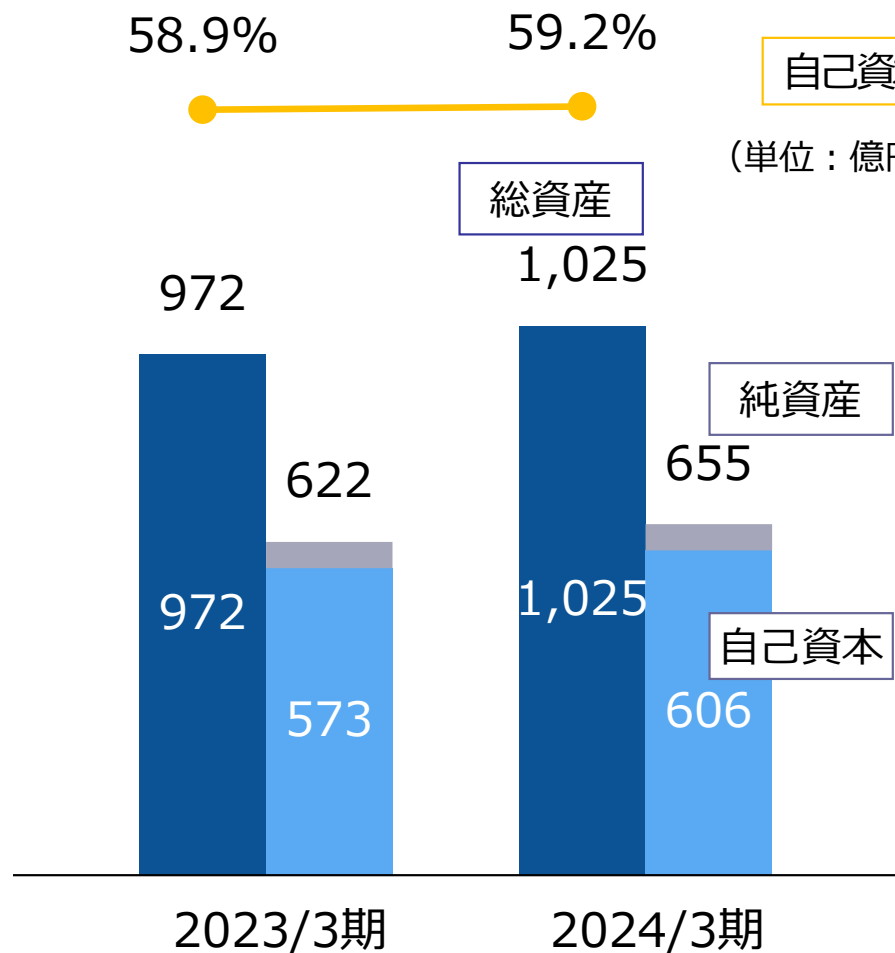


営業CF: 前期比では利益減による減少
 投資CF: 倉庫建設関連の支出増

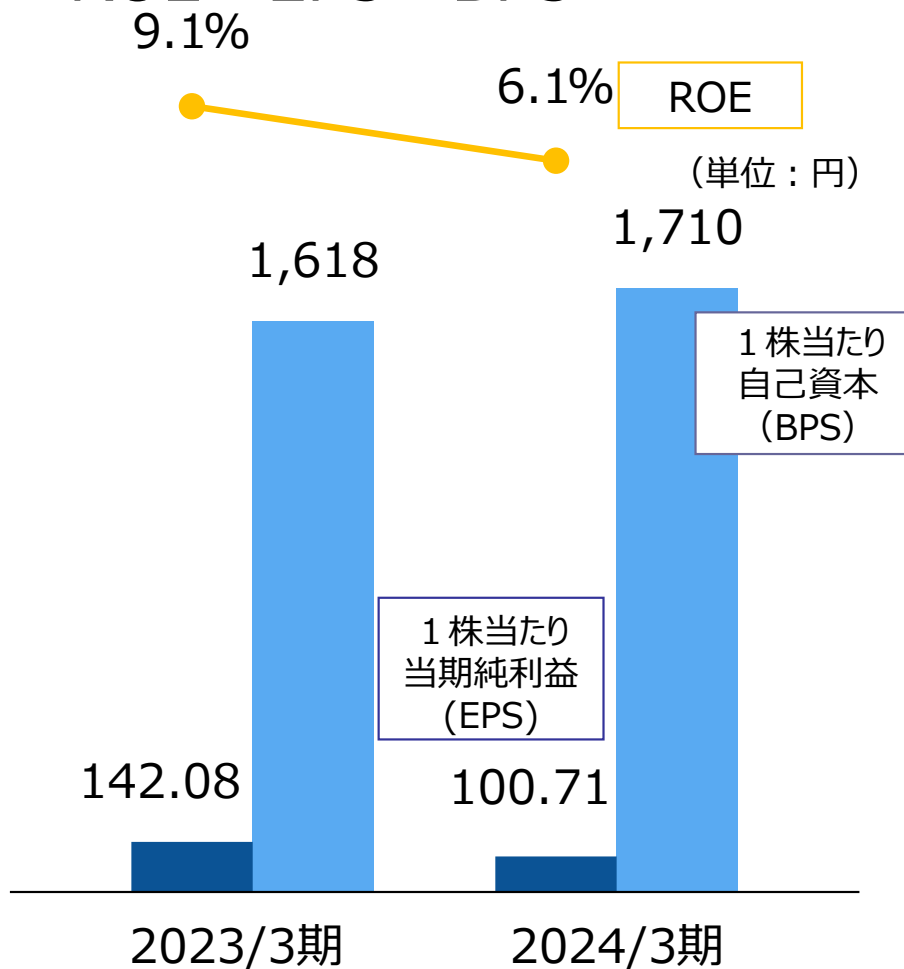
借入金: 新規調達なく返済により借入
 残高は微減



■ 資産状況



■ ROE・EPS・BPS

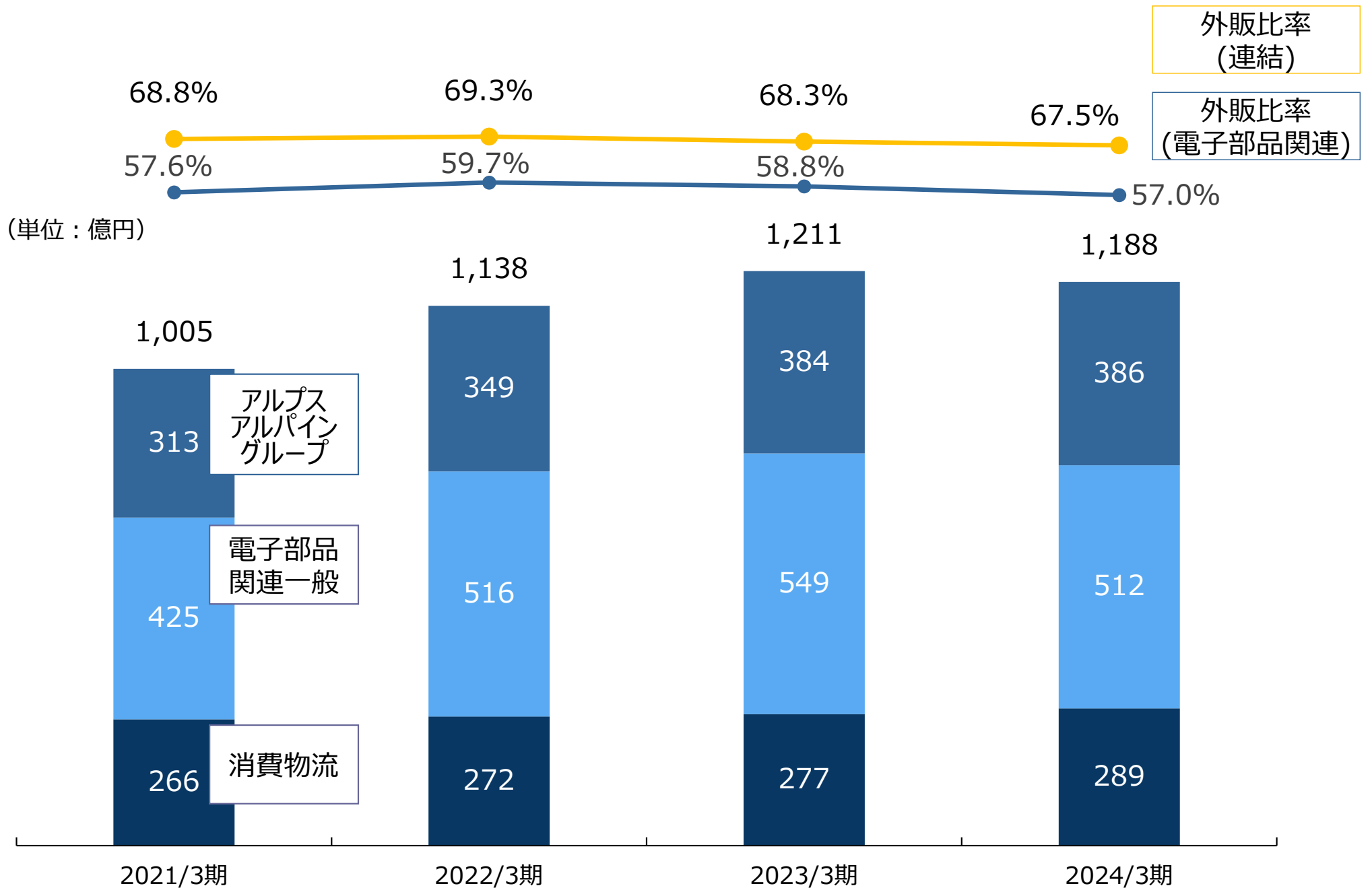


総資産：有形固定資産増による増
 自己資本比率：利益の確保に伴い+0.3p

親会社株主に帰属する当期純利益の減に伴い、ROE △3.0p、EPS △41.37円

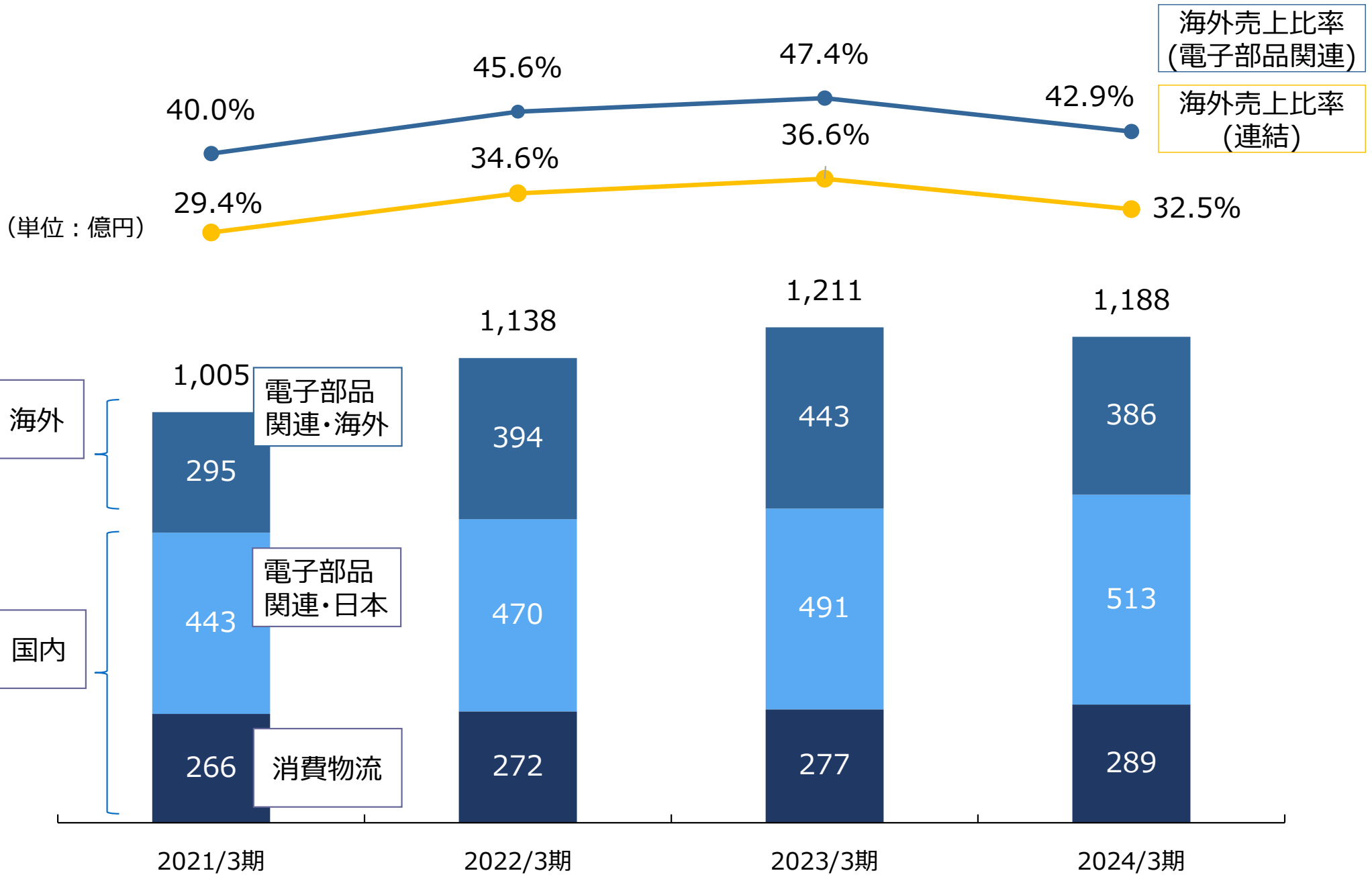


外販比率





海外売上比率



■ 拠点数 (単位：箇所)

(単位：箇所)

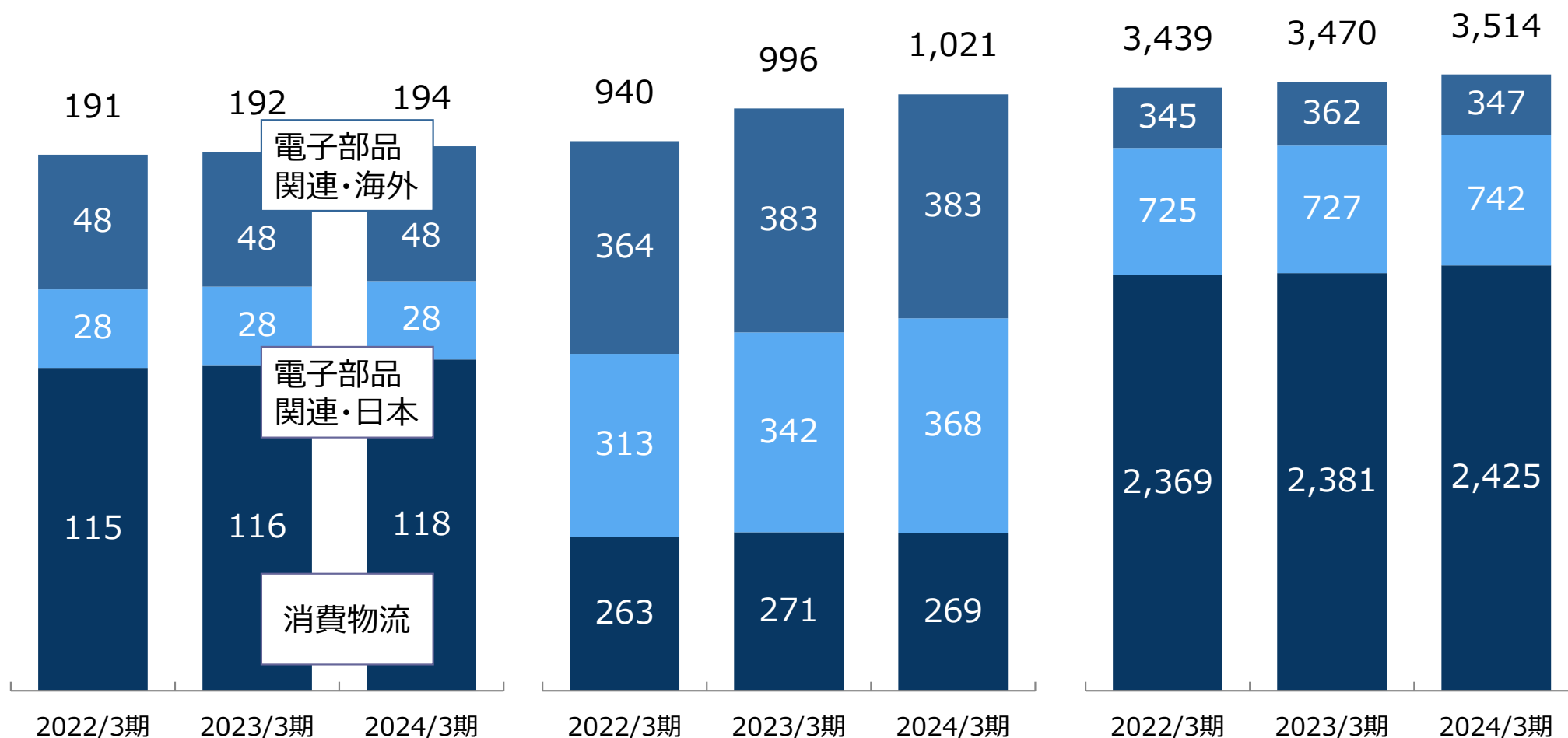
■ 倉庫面積 (単位：千㎡)

(単位：千㎡)

■ トラック

(単位：台)

定期運行台数



成長を加速するための投資を拡大

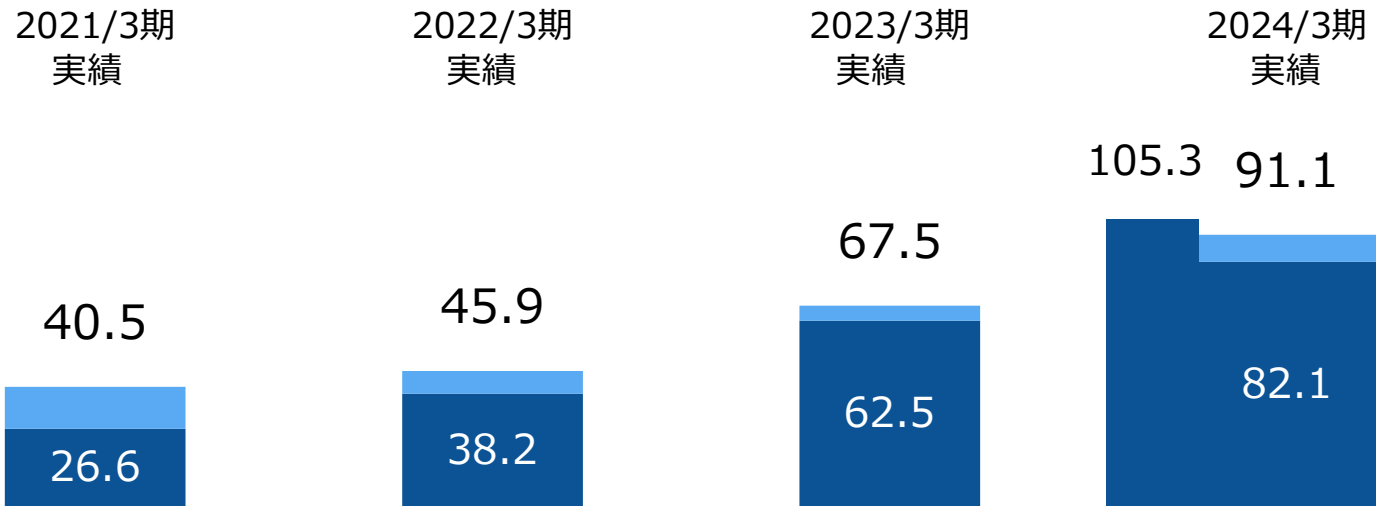
【投資額】

(倉庫賃借除く)

(単位：億円)

消費物流

電子部品関連



【主案件】

横浜倉庫建設

名古屋倉庫建設

韓国2期棟建設

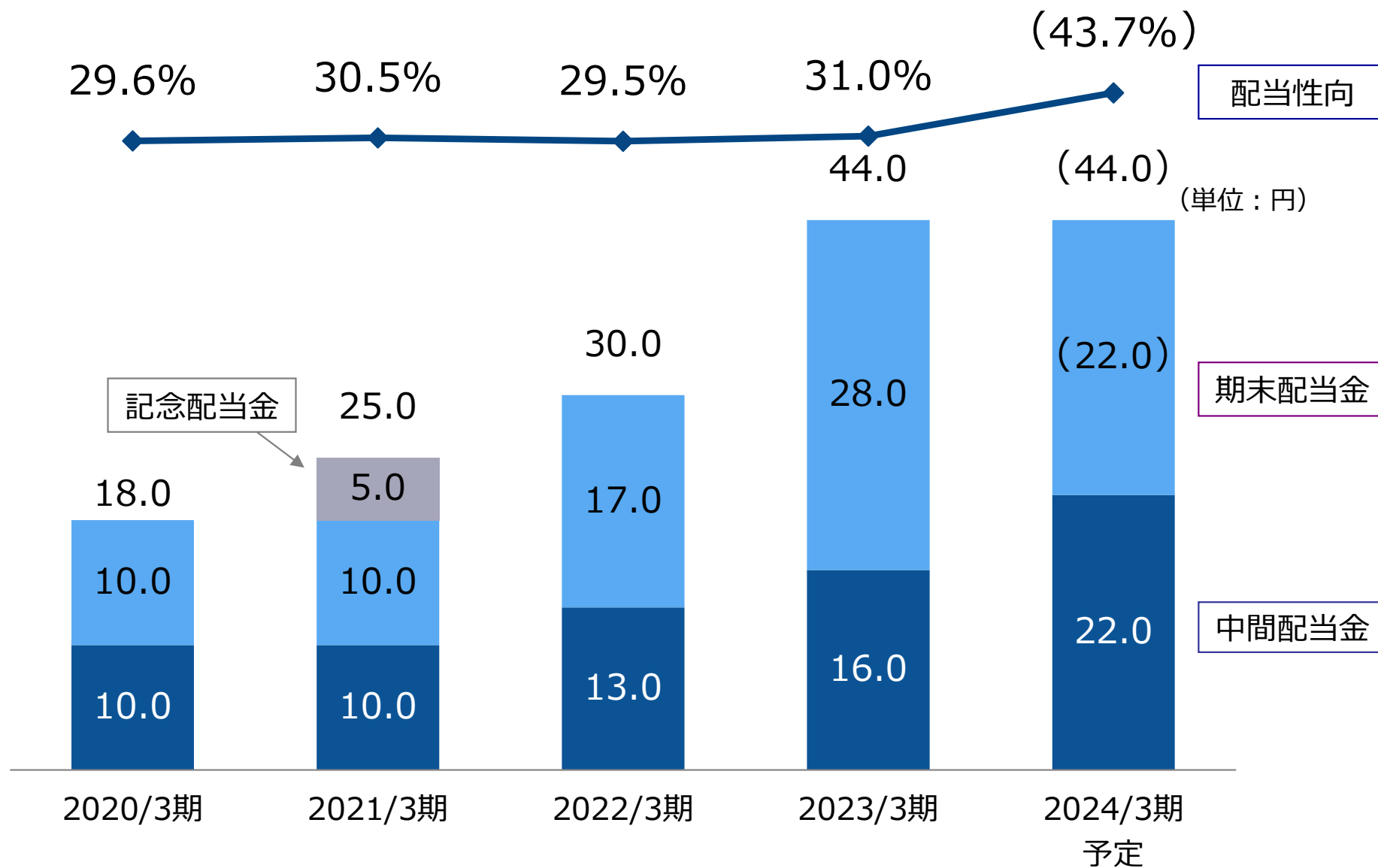
海外拠点の新設・整備など

環境関連設備・車両の導入

自動化設備

資本業務提携・M&Aなど

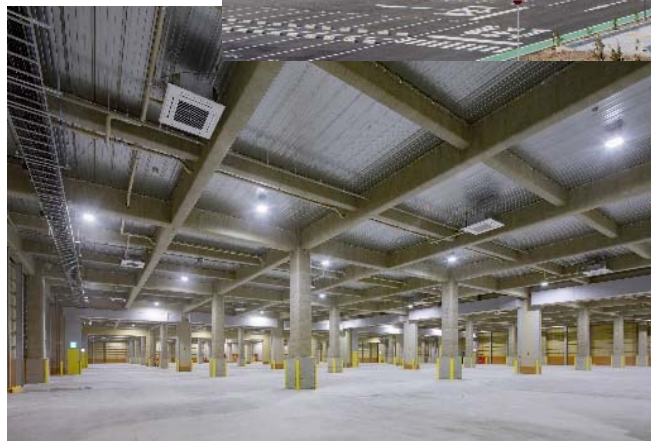
当期末配当は「22円」、年間配当「44円」を予定



1. 2024年3月期決算の概要
- 2. 主な事業活動**
3. 資本業務提携等について

国内：保管能力を拡大

- **愛知県小牧市に新倉庫を竣工**
2024年1月竣工、2月5日より稼働開始
新倉庫の面積：33,000m²
AMR（自律走行搬送ロボット）を活用した自動倉庫を初導入し、庫内業務を効率化
- **相模原倉庫を拡張**
2024年度2月
倉庫面積：8,500m²に
- **庄内倉庫を自社化し、拡張**
2024年1月自社化
新規ビジネスにより更に活性化のため増床
倉庫面積：5,500m²に
- **大阪府茨木市で倉庫を開設**
2024年1月稼働開始
新倉庫の面積：4,000m²



- **輸出入センターを蒲田へ移転**
2023年6月大井営業所(東京都大田区東海)から移転

海外：ロジスティクス機能を強化

● 各エリアで保管面積を増強

23年4月	タイ・バンナ	2,450m ²
	マレーシア・セランゴール	2,300m ²
23年6月	中国・無錫	3,100m ²
23年7月	メキシコ・ケレタロ	5,300m ²
	シンガポール	2,000m ²
23年10月	韓国・光州（自社）	4,500m ²
23年11月	ベトナム・ホーチミン	100m ²
24年1月	ドイツ・ドルトムント（自社）	2,000m ²



● フィリピン現法を設立

2023年6月設立

輸出入事業を中心に業務拡大を目指す

● インドで自社トラックサービスを開始

2023年10月よりグジャラート・デリー間を週2往復する
長距離自社幹線輸送サービスを開始



自動化アイテム導入を継続し、省人化を促進

● AGV/AMRタイプの自動倉庫を導入

多品種・小ロットに合わせた自動倉庫を既存倉庫にも導入

横浜営業所：AGVタイプ自動倉庫（23年度導入）

名古屋営業所：AMRタイプ自動倉庫（23年度導入工事開始）



● 自動化機器導入事例

無人フォークリフト、配膳ロボット、一括バーコードスキャナー等
多様な自動化設備を導入



BtoB物流を拡大・BtoC物流は堅調

● 化粧品・食品の取扱量を拡大（前年比 121.4%）

BtoB：化粧品・食品取扱い企業の販売先拡大

BtoC：通販企業の取扱いカテゴリー増加（冷凍食品・酒類）

ロボット機器導入により省力化を促進

● 重量検品機能付AMR 自律走行搬送ロボットを導入

試験導入を経て、2023年8月稼働

最適ルートの走行により、作業時間を30%短縮（20台）



「個配」新規生協受託、夕食宅配拡大など42台増車

● 長崎ララコープ[®] 5台（新規）

長崎北部C 2024年3月稼働

● 夕食宅配 17台

コープぐんま 前橋C 10台

コープみらい 千葉北C 7台

E 環境

●TCFD賛同表明

2023年9月、TCFDのフレームワークに沿った情報開示を実施



●CDPへ環境情報開示

2023年7月実施、気候変動・水セキュリティ質問書に対し回答実施【B-】の評価を獲得



●海外拠点でISO14001（環境）認証を取得

寧波・厦門・香港・シンガポールにて取得

●「鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰」を受賞

ノカンゾウ育成活動が鶴見川流域水協議会より「鶴見川流域水循環系健全化貢献者表彰」を受賞

●ANA SAF Flight Initiativeプログラムに参画

12月、CO2排出量を従来燃料より約80%削減できるバイオマス燃料(SAF)をフライトに使用

●軽バンタイプEV車を導入

横浜営業所・大井営業所に導入



S 社会

- 横浜市のSDGs認証制度
Y-SDGs認証で“上位Superior”を取得
- 「マルチステークホルダー方針」を策定
- 健康優良法人に2年連続で認定
- 2024年問題への対応を完了
運行ルートの見直し、ハブ拠点でのドライバー交代等の施策を通じ拘束時間の短縮を実施

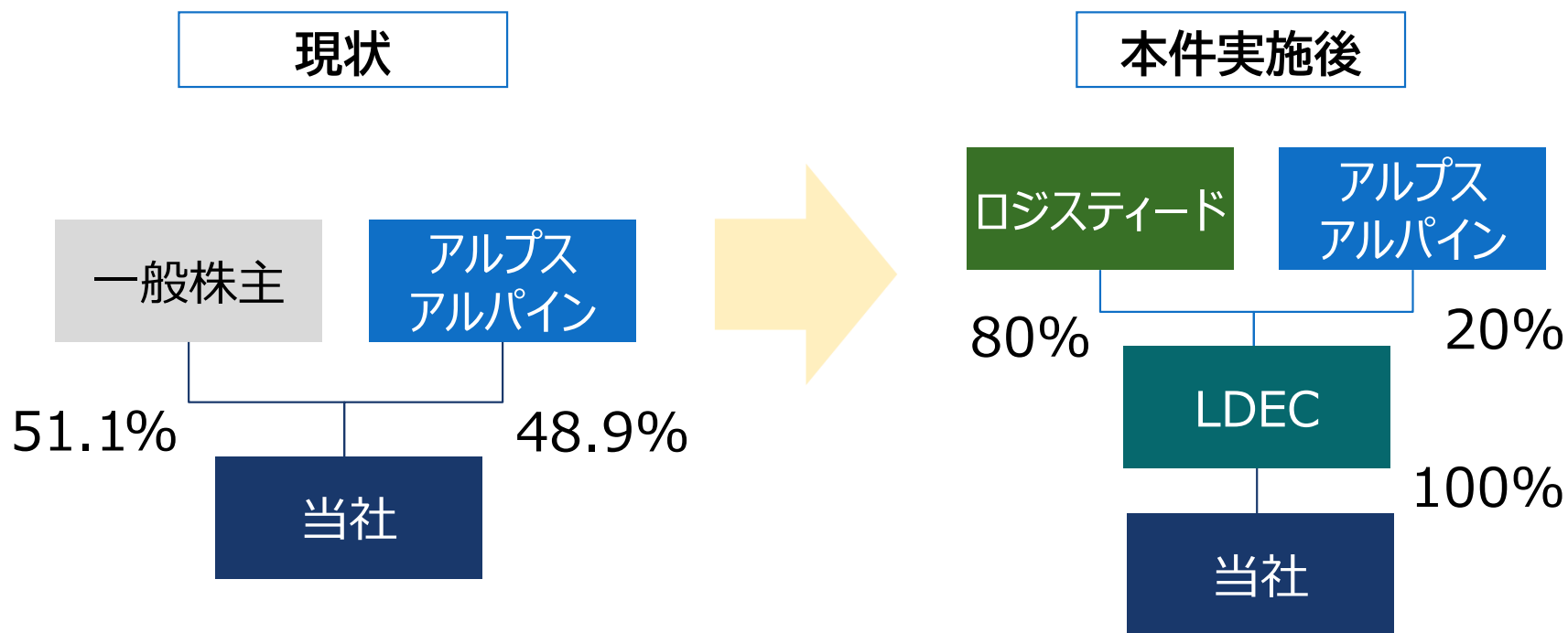


G ガバナンス

- リスク管理委員会を立上げリスクアセスメントを実施
全社的なリスクアセスメントを実施し、重要リスクの抽出と対応
定期的なモニタリングを開始
- サステナビリティ情報開示の推進
2023年9月 統合報告書を初めて発行



1. 2024年3月期決算の概要
2. 主な事業活動
- 3. 資本業務提携等について**



スケジュール	
2024年5月9日	取締役会決議
2024年5月9日	資本業務提携契約の締結
2024年8月中旬頃	公開買付けの開始(予定)

2024年9月以降のスケジュールは確定次第お知らせいたします

ロジステードとの資本業務提携による 両社の継続的な企業価値向上の実現



L
-アルプス物流に、Logisteedの持つNetwork、Operational Excellenceを掛け合わせることで、大きな相乗効果

A
-アルプス物流として、当社の競争力を高める為の組織能力補完・強化の為の協創パートナー

- ・ 調達～完成品 一気通貫サービス
- ・ 顧客基盤の拡大（非日系など）
- ・ スケールメリット 調達力強化
- ・ 輸送能力確保と効率化
- ・ ネットワーク、拠点の相互利用
- ・ システムの高度化 等々

株式会社 **アールエス** 物流